



# 現代文・知識

1

次の各設問に答えよ。

問一 次の傍線部の漢字をひらがなに直しなさい。

基本 (1) 市役所に婚姻届を提出する。 ( )

基本 (2) 小さな犬が大きな犬を威嚇する。 ( )

基本 (3) 野球部の部員集めに奔走する。 ( )

基本 (4) 小豆を煮て食べる。 ( )

問二 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

基本 (1) 世界平和のためコウケンする。 ( )

基本 (2) 提案にコウテイ的な意見が目立つ。 ( )

基本 (3) アイシユウを帯びた笛の音。 ( )

基本 (4) 兄が父のシヨウゾウ画を描いた。 ( )

問三 次の四字熟語の傍線部の漢字は誤っている。□に正しい漢字を書きなさい。

基本 (1) 暗中模策↓ □ 意味慎長↓ □

基本 (3) 五里夢中↓ □

基本	標準	応用
3問	4問	20問

正解数をチェックしよう。

2

次の意味にあてはまる語として最も適当なものを、後の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 (1) 現実性・実現性・真実味のこと。 ( )

① セオリー ② オリジナリティー

③ リアリティー ④ イデオロギー

基本 (2) 韻律をもたないふうの文章。 ( )

① 散文 ② 重文

③ 単文 ④ 韻文

基本 (3) 芸術作品の動機や主題のこと。 ( )

① ナイーブ ② ノウハウ

③ モラル ④ モチーフ

基本 (4) 虚構のこと。事実の記録ではなく、想像力により架空の人物や事件を描いた作品。 ( )

① ノンフィクション ② イマジネーション

③ フィクション ④ アニメーション

標準 (5) 芸術作品の細部のこと。 ( )

① デイテール ② プロローグ

③ アイテム ④ ダイジェスト

応用 (6) 言外にあるおもむきのこと。 ( )

① イズム ② クレーム

③ 余韻 ④ 叙情

3

次の意味にあてはまる慣用句を、後の空欄を埋めて完成させよ。  
ただし、空欄一マスにつき一字とする。また（ ）内の指示に従い、ひらがなもしくは漢字で埋めること。



基本

(1) かんしゃくを起こす様子。

青  を立てる (漢字)



基本

(2) 不愉快になり、ひねくれる様子。

を曲げる (ひらがな)



基本

(3) 力を加えて、物事を今まで以上に進める。

をかける (漢字)



基本

(4) 実行するのをためらって、しりごみする。

の足を踏む (漢字)



基本

(5) あとに心が残って思い切れない様子。

後ろ  を引かれる (漢字)



標準

(6) できうる最大限度。

の山 (漢字)



標準

(7) 話題に乗り気になる様子。

を進める (ひらがな)



標準

(8) 力が及ばずもて余す。

手に  する (漢字)



応用

(9) 驚きあわてる様子。

を食う (ひらがな)



応用

(10) 結局は。

とどの    (ひらがな)



# 古文・知識

基本	標準	応用
7問	14問	8問

正解数をチェックしよう。

## 1

次の各文の空欄に入る助詞として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 (1) 主殿司とのもつかさ、女官などが行きちがひたる（ ）をかしけれ。  
(主殿司、女官などが行きちがっているのが趣き深い。)

- ① ぞ ② なむ ③ や ④ か ⑤こそ

基本 (2) 光やあると見るに蛩せみばかりの光（ ）なし。  
(光があるかと見るが蛩ほどの光さえない。)

- ①のみ ②やは ③に ④だに ⑤か

## 2

次の各文の傍線部の助動詞の文法的な意味として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 (1) 京には見えぬ鳥とりなれば、……。（ ）

- ①完了 ②推量 ③意志 ④打消 ⑤断定

基本 (2) おのが身はこの国の人にもあらず、月の都の人なり。（ ）

- ①完了・存続 ②断定 ③尊敬 ④推定 ⑤当然

標準 (3) 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

- ①打消 ②推量 ③過去 ④当然 ⑤断定

標準 (4) 日かずのはやく過ぐるほどぞ、ものにも似ぬ。

- ①打消 ②過去 ③完了 ④推量 ⑤受身

標準 (5) 聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。

- ①打消 ②推量 ③過去 ④完了 ⑤願望

標準 (6) 思はむ子を法師になしたらむこそ心苦しけれ。

- ①打消 ②過去 ③断定 ④婉曲えんきよく・仮定 ⑤可能

応用 (7) さきの世にも御契りや深かりけむ。

- ①現在推量 ②反実仮想 ③適当  
④過去 ⑤過去推量

応用 (8) やまと歌は人の心を種としてよろづの言の葉とぞなれりける。

- ①可能 ②希望 ③完了 ④断定 ⑤受身

3

次の傍線部の語の活用形として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 (1) 鏡に色形あらましかば映らざらまし。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 連体形
- ④ 終止形
- ⑤ 已然形

標準 (2) 机の上に文を繰り広げて見たり。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 命令形

標準 (3) 大きな利を得んがために少しきの利を受けず。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形

標準 (4) 今宵はただに臥し給へれ。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 已然形
- ⑤ 命令形

標準 (5) かかる折にも、あるまじき恥もこそ、

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 連体形
- ④ 終止形
- ⑤ 已然形

標準 (6) ふりわけ髪も肩過ぎぬ。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形

応用 (7) 秋来ぬと目にはさやかに見えねども……

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形

応用 (8) 隆家こそいみじき骨は得て侍れ。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 已然形
- ⑤ 命令形

応用 (9) たれか一人ふるさとに残りをらむ。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形

4

次の各文の傍線部の語句の意味として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 (1) ふみを書きてやれど、返り言せず。

- ① 書物
- ② 漢詩
- ③ 学問
- ④ 手紙
- ⑤ 物語

基本 (2) 酒宴ことさめて、いかかはせむとまどひけり。

- ① 面白くない
- ② 楽しかった
- ③ 誰が悪いか
- ④ 次はいつか
- ⑤ どうしようか



基本

(3) つれづれなる日、この大臣、として、またこのむすめ……これ

四人つどひて、よろづの物語りし、…… ( ) ( )

① 雨の降る日 ② することのない暇な日

③ お互いに都合のつく日 ④ とても寒い日

⑤ 寂しく辛い日



標準

(4) いかでさる事は知りしぞ。 ( ) ( )

① 誰が ② どうして ③ 誰も

④ いつから ⑤ みんなが



標準

(5) 世の中をあぢきなしと思ひ取りて出家してけり。 ( ) ( )

① 耐え難い ② 豊かでない ③ 信じられない

④ 変えられない ⑤ 理解できない



標準

(6) もののあはれも知らずなりゆくなむ、あさましき。 ( ) ( )

① 疑わしいものだ ② すばらしいものだ

③ 心苦しいものだ ④ 嘆かわしいものだ

⑤ 珍しいものだ



標準

(7) ひとりのみながむるよりは女郎花……。 ( ) ( )

① 物思いをしている ② 長く楽しんでる

③ 仲直りしている ④ がまんしている

⑤ 見物をしている



標準

(8) 時雨ゆゑかづく袂をよそ人は紅葉をはらふ袖かどや見む ( ) ( )

① かける ② かぶる ③ ひろげる

④ たぐる ⑤ つつむ



応用

(9) たのま<sup>ず</sup>もあらで、案じ<sup>あ</sup>たる人あり。 ( ) ( )

① 信用しない ② 方法もない ③ 紹介しない

④ 用心しない ⑤ 悩まない



応用

(10) このをこの家ゆかしくて、ゐて行けといひしかば、ゐてきたり。 ( ) ( )

① 上品で ② 知りたくて ③ 裕福で

④ 美しくて ⑤ 珍しくて



# 古文・読解

正解数をチェックしよう。

基本	標準	応用
1問	3問	3問

次の文章は、主人公（男）が、女の邸に忍んで訪れた場面である。

これを読んで、後の各問い（問一～五）に答えよ。

そのかみ、ものいはで、奥にはひ入りて、隠れ立ちて、見れば、女、  
 葩押し上げて、かの高き人をぞいだしける。この男、かう、うつつに  
 見つることの心憂きことと思ひて、よに知らず心憂かりけれど、もの  
 一言をだにいはむ、さて、はた、見けりところそは思はれめとて、板  
 敷きの端に立ち寄りて、声高く「あな、おもしろの花や」といへば、  
 この女、奥へも入りはてざりければ、あやしがりて、さしのぞきたり。  
 見合はせて、「いかでかは、ここに、かうは」といへば、「この前栽の  
 花の、目に見す見すうつろふ、見はてになむ、まあり来つる」とぞい  
 ひける。その家の前に、桜のいとおもしろく咲きて、春のはてがたに  
 やありけむ、散りけり。それを見て、男、  
 〇 あらはなることあらがふな  
 桜花春をかぎりど散るは見えつつ  
 といひて、ふといでてゆきければ、「えこそ。しばしや」といひけれ  
 〇 ど、いとかう憂しと思ひて、とまらざりければ、しひてかくなむ。

色にいでてあだに見ゆとも

桜花風し吹かずは散らじどぞ思ふ

といへりけれど、「ものへいでぬ」とて、返りこともせざりけり。

〔平中物語〕による

〔注〕 1 うつつに見つること——現実を見てしまうこと。

2 目に見す見すうつろふ、見はてになむ——目の前ではつきりと散つてゆくのを見届けよう。

3 「えこそ。しばしや」——「とてもそんなことは。しばらくお待ちください」

問一 傍線部A「いだしける」・D「とまらざりければ」の主語として

最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 A ( ) 標準 D ( )

- ① 女
- ② 男
- ③ かの高き人
- ④ 男の供人
- ⑤ かの高き人の供人

## 標準 問二

傍線部B「声高く『あな、おもしろの花や』といへば」とあるが、そのように言った理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 男が女に対して、自分の存在に気づかせようと思ったから。
- ② 男がかの高き人に対して、見事な花を見るよう促そうと思つたから。

応用  
問三

- ③ 女がかの高き人に対して、自分の庭の花を自慢しようと思っ  
たから。
- ④ 女がかの高き人に対して、もう少しいるよう引き留めたいと  
思ったから。
- 傍線部C「あらはなること」の解釈として最も適当なものを、  
次の①～④のうちから一つ選べ。 ( )

- ① 男が訪ねたのを女に見つけられたこと。
- ② 別の男と女が交際をしていること。
- ③ 男が女の姿をはっきり見てしまったこと。
- ④ かの高き人と男が偶然出会ったこと。

問四 傍線部E「桜花風し吹かずは散らじとぞ思ふ」について次の各  
問いに答えよ。

標準

- (1) 現代語訳として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 ( )

- ① 桜の花は、風が吹いても散ったりしないだろうと思う。
- ② 桜の花は、風が吹かないので散るはずがないと思う。
- ③ 桜の花は、風が吹かないときはいつも散らないと思う。
- ④ 桜の花は、風が吹かなければ散ったりするまいと思う。

応用  
問二

(2) A君は傍線部Eが「他の男から言い寄られても男を一途に思い  
続ける女の心」を表すという、誤った解釈をした。この解釈が  
誤っている理由を述べた次の文中の空欄に当てはまるものとして  
最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 ( )

・「桜花」が女の心、「散る」が浮気することを表すという解釈は  
正しいが、「吹かずは散らじとぞ思ふ」では□□ことになり、  
浮気の可能性を否定できないから。

- ① 「ずは」が仮定の形なので、吹いたら散るとい  
う
- ② 「じ」が「散らないでほしい」と打消の願望を表す
- ③ 「思ふ」の主語は男なので、女の意味はわからない
- ④ 「とぞ」が「とかいう」と曖昧さを表現している

応用  
問五

本文の内容と合致するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
( )

- ① 女は男を純粋に愛していたが、男はそれを知らずに別の女の  
所へ行ってしまった。
- ② 男とかの高き人との激しい争いに、女が仲裁として入り関係  
は修復した。
- ③ 女は男に気持ちを伝えようとしたが、男はそれを受け入れよ  
うとはしなかった。
- ④ 男は女に思いを寄せていたけれども、女は冷たく突き放して  
いた。

# 漢文・知識

正解数をチェックしよう。

基本	標準	応用
12問	15問	4問

## 1

次の(1)～(5)の熟語はそれぞれどんな原則によって構成されているか。最も適当なものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- 基本 (1) 損得 ( ) ( )  
 標準 (3) 歓声 ( ) ( )  
 標準 (4) 年長 ( ) ( )  
 標準 (5) 絶交 ( ) ( )

- ① 主語と述語の関係 (例 日没)  
 ② 修飾語と被修飾語の関係 (例 深海)  
 ③ 同類の語の並列の関係 (例 河川)  
 ④ 述語と目的語・補語の関係 (例 登山)  
 ⑤ 対立する語の並列の関係 (例 勝負)

## 2

次の□を漢字一字と考えた場合、訓読する順序として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- 基本 (1) □A □B □C □D □E □F □G ( ) ( )  
 ① D C A B F G E  
 ② D C F G E A B  
 ③ B F G E D C A  
 ④ B D C A F G E  
 ⑤ B D F G E C A  
 ① A B C D E F ( ) ( )  
 ② D C F G E A B  
 ③ B F G E D C A  
 ④ B D C A F G E  
 ⑤ A B C D E F ( ) ( )

## 3

次の漢文を訓読する順序として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- 基本 (1) 王聞<sub>三</sub>胡王攻<sub>二</sub>吾国。 ( ) ( )  
 ① 王胡王攻吾国聞  
 ② 王胡王吾国攻聞  
 ③ 王胡王聞吾国攻  
 ④ 王聞胡王吾国攻  
 ⑤ 王聞胡王攻吾国
- 基本 (2) 可<sub>三</sub>以<sub>二</sub>濯<sub>一</sub>吾足。 ( ) ( )  
 ① 以濯吾足可  
 ② 以吾足可濯  
 ③ 以吾足濯可  
 ④ 吾足以濯可  
 ⑤ 吾足可以濯
- 基本 (3) 莫<sub>二</sub>待<sub>一</sub>無<sub>レ</sub>花空折<sub>レ</sub>枝。 ( ) ( )  
 ① 空枝花無待折莫  
 ② 空枝折花無待莫  
 ③ 花空無待折莫枝  
 ④ 花無待空折莫枝  
 ⑤ 花無待空枝折莫



4

次の漢文の書き下し文として最も適當なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。



基本 (1)

人之情易<sup>ハ</sup>発<sup>レ</sup>而難<sup>キ</sup>制<sup>シ</sup>者<sup>ナリ</sup>

( )

- ① 人の情は発し易くして制し難き者なり。
- ② 人の情は発しやすくして制しがたき者なり。
- ③ 人の情ははつし易くしてせいし難き者なり。
- ④ 人の情は発し易くして而制し難き者なり。
- ⑤ 人の情は発しやすくして而制し難き者なり。



基本 (2)

千里之行始<sup>マ</sup>於<sup>レ</sup>足下<sup>ヨリ</sup>

( )

- ① 千里之行も於足下より始まる。
- ② 千里之行も足下より始まる。
- ③ 千里の行も足下より始まる。
- ④ 千里の行も於足下より始まる。
- ⑤ 千里の行も足下於より始まる。



基本 (3)

一寸<sup>ノ</sup>光陰不可<sup>カラ</sup>輕<sup>ンズ</sup>

( )

- ① 一寸の光陰軽んず可からず。
- ② 一寸の光陰軽んず可からず。
- ③ 一寸の光陰軽んずべし。
- ④ 一寸の光陰軽んずべからず。
- ⑤ 一寸の光陰軽んずべからず。



標準 (4)

為<sup>リ</sup>有<sup>レ</sup>德<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>而<sup>ム</sup>惠<sup>ガ</sup>於<sup>ニ</sup>民<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>

( )

- ① 於天に徳有りて而於民に恵むが為也。
- ② 於天に徳有りて於民に恵むが為なり。
- ③ 天に徳有りて而民に恵むが為也。
- ④ 天に徳有りて民に恵むが為なり。



標準 (5)

青取<sup>ハ</sup>之<sup>ヲ</sup>於<sup>レ</sup>藍<sup>ニ</sup>而<sup>シ</sup>青<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>藍<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>

( )

- ⑤ 天に徳ありて民に恵むがためなり。
- ① 青は之を於藍より取りて、於藍よりも青し。
- ② 青は之を藍より取りて、而藍よりも青し。
- ③ 青は之を藍より取りて、藍よりも青し。
- ④ 青はこれを藍より取りて、藍よりも青し。
- ⑤ 青はこれを於藍より取りて、於藍よりも青し。

5

次の漢文の現代語訳として最も適當なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。



基本 (1)

管仲<sup>ノ</sup>常<sup>ニ</sup>欺<sup>ム</sup>鮑叔<sup>ヲ</sup>

( )

- ① 管仲はいつも鮑叔にだまされていた。
- ② 管仲はいつも鮑叔をだましていた。
- ③ 管仲と鮑叔はいつも人をだましていた。
- ④ 鮑叔はいつも管仲をだましていた。
- ⑤ 鮑叔と管仲はいつもだまされていた。



標準 (2)

知<sup>ル</sup>者<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>言<sup>ハ</sup>言<sup>フ</sup>者<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ラ</sup>

( )

- ① 真に知っていても言わない人は、知らないのと同じだ。
- ② 真に知っていても、何も言わない人のことは知らない。
- ③ 真に知っている人は言わない、逆に言う人は知らない。
- ④ 真実を言う人は、知らないことは知らないと言う。
- ⑤ 真実を言わない人は、知っていても知らないと言う。

標準  
(3)范増はんぞう數しほしば目ス王ニ

( )

- ① 范増はたびたび王と目で合図をした。
- ② 范増は多くの王と目で合図をした。
- ③ 范増はたびたび王から目で合図をされた。
- ④ 范増は多くの王に目で合図をした。
- ⑤ 范増はたびたび王に目で合図をした。

標準  
(4)無キ不ル知レ愛スルヲ其ノ親ヲ者ナリ

( )

- ① 自分の親を愛することを知らない者は人を愛せない。
- ② 自分の親を愛することを知らない者はいない。
- ③ 自分の親を愛することを知らなくてはならない。
- ④ 親は人を愛するということを知らなくてはならない。
- ⑤ 親は人を愛するということを知らせなくてはならない。

標準  
(5)(性嗜このメドモ酒)家貧シクシテ不レ能ニ常ニハ得ル

( )

- ① 家が貧しいとはいえ、いつも手に入れることができないうがな。
- ② 家が貧しいとはいえ、手に入れないことがないようにしない。
- ③ 家が貧しいので、いつも手に入るといものは限られていた。
- ④ 家が貧しいので、いつも手に入られるとは限らなかった。
- ⑤ 家が貧しいので、いつも手に入れることができなかつた。

標準  
(6)君非ザル自知ルニ我ヲ也

( )

- ① 君自身は進んで私を理解しようとした。
- ② 君自身が私を理解したのではない。
- ③ 私自身では君を理解していない。
- ④ 私自身を理解している君はいない。
- ⑤ 自分自身を理解している君はいない。

応用  
(7)今蛇安クニカ在ル

( )

- ① 今蛇はどこにいますか。
- ② 今蛇はどこにいるだろうか、どこにもいない。
- ③ 今蛇はどこにもいないのですか。
- ④ 今蛇がどうしてここにいるのですか。
- ⑤ 今蛇がどうしてここにいるだろうか、いや、いない。

6



(1) 次の漢文は「舟はもうとつくに行つてしまつた。」という意味である。傍線部の読み方として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

舟已行矣。

- ① すでに ② つひに ③ もはや ④ はなはだ ⑤ まつたく



(2) 次の漢文は「二人が一緒に羊の番をする。」という意味である。傍線部の読み方として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

二人相与牧羊。

- ① すでに ② つひに ③ あたへて ④ はなはだ ⑤ ともに



(3) 次の漢文の傍線部の意味として最も適当なものを後の①～⑤のうちから一つ選べ。

君子者不慮利慮心。

- ① 高い地位にある人。 ② 政治にたずさわる人。  
③ 徳の高い立派な人。 ④ 天子の初めての子供。  
⑤ 国を支配する君主。



(4) 次の漢文の傍線部の意味として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

唯仁者能好人能恶人。



(5) 次の漢文の傍線部の意味として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

辞家見月兩回円。

- ① やめる ② 断わる ③ 送る ④ 遠慮する ⑤ 立ち去る



(6) 次の漢文の傍線部の意味として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

人間万事塞翁馬。

- ① 人類 ② 人格 ③ 人事 ④ 人の世 ⑤ 人間性



(7) 次の漢文の傍線部の意味として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

小人間居為不善。

- ① 徳のない人 ② 地方の役人 ③ 幼い子供  
④ 君主に仕える人 ⑤ 君子に従う人



(8) 次の漢文の傍線部の意味として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

故人西辞黄鹤楼。

- ① 友人 ② 君主 ③ 顔見知り  
④ 偉人 ⑤ 亡くなった人